

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日: 令和 6年 3月 1日

公表: 令和6年3月13日

事業所名 chameleon

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11	2	面積的には満たしている。体を十分に動かしたときには、体育館や公園等に行くようにしている。	
	2	職員の配置数は適切である	13	0	多めの職員配置にしている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	12	1	階段があるが、見学や利用希望の児童、保護者には事前に施設の状態を説明して対応している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	13	0	毎朝清掃を行い、かつ必要に応じて清掃するようにしている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	12	1		できる時とできない時がある。またしている内容にばらつきがあるので、職員間での意思共有や情報提示の方法について検討が必要
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12	1	事業所に対応できるものは改善に努めている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11	2		公表はしているもの、全職員に周知ができていないため、知らせるようにする。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	8		外部評価の検討を行う。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13	0	疑問に思ったことは研修の題材とし、意見交換するようにしている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	12	1	職員で状況を共有し、客観的に評価ができるように努めている。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11	2		標準化されたものの準備はあるが、活用できていない。今後の利用を検討していく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	12	1	全体的な提供支援を念頭に、優先度の高いものを支援内容として設定している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	13	0	日々子供たちにとって必要なもの何か考え、計画に沿った支援を心掛けている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	11	2		週1回の短時間パートで参加できていない人がいる為、記録等で提示しながら、立案に参加してもらう。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12	1	固定化しない方が良い児童と固定が必要な児童について考え方を分けて支援を行っている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	12	1	そのときのコンディションなどをみながら、臨機応変に対応するようにしている。	
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	12	1	打ち合わせという形はとっていないが、1日の記録を各自読み、疑問点はそれぞれで質問をするようにしている。		

	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	12	1	打ち合わせという形はとっていないが、その日に気になった点を職員で共有するようにしている。 記録に打ち込み、職員間で共有している	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	0	いつみてもわかるように詳細に記録を取るようにしている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	11	2	できるだけ送迎時に、保護者とその日の様子を話すようにしている。必要に応じて検討できていると思う。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13	0	児童発達管理責任者が参画	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9	4		ケースによっては連携があるものの、積極的にはできていない為、検討していく
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4	9		対象児童が居ない為、必要に応じて検討していく
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4	9		対象児童が居ない為、必要に応じて検討していく
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	4		移行する子どもたちが今のところいない為、必要に応じて行っていく 可能な児童が来所する可能性もある。今後親交を深めながら機会を作っていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10	3		保護者より要望があった場合のみ行っている。情報共有も検討していく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	6	市内の事業所間での集まりに参加し、コミュニケーションを取るようにしている。研修も受けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	7	外出した際に地域の子ども達と関わることはある	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7	6	市の運営会議に参加している	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11	2	連絡帳や個別の療育記録、送迎時にできるだけお伝えをするようにしている。	
保護者への...	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	8	5	ペアレントトレーニングという形ではないが、保護者と関わり方については話している	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11	2		説明はしているが、不足する部分があるかもしれないので、丁寧に行っていく
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	11	2		パートの中には、詳細な情報を知らない人もいる為、周知していく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11	2	いつでも気軽にやり取りができるようにメールでの対応もしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9	4	今年度は6月・3月に開催した。3月は調理活動を行い、話しやすい環境づくりに務めた。	

説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	11	2	出来るだけ迅速に対応できるように努めている。 児童の周辺状況を確認しながら丁寧に対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10	3	活動の計画、目的などを都度メールにてお知らせするようにしている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	13	0	確認をしながら、できるだけミスがないよう心掛けている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	13	0	相手に伝わりやす方法で伝えるようにしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	10		現在行っていないが、機会を作っていきたい
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	12	1	避難訓練実施。また児童と一緒に災害について話し合うことも意識的にやっている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	13	0	こどもたちに恐怖感を与えないように訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	12	1	毎回投薬等ないか確認し、必要な子は緊急時対応を作成するようにしている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10	3	指示書ではないが、契約時に保護者に対応についてお伺いし、その通りに対応するようにしている	保護者の希望されている内容で対応をしている
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	13	0	紙面にて提示し、全職員が確認している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12	1		研修は行っている。内容の周知を行う。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	10	3		現在対象の児童が居ない為、必要に応じて行っていく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

